

## 箴言【新改訳改訂第3版】

- 31:10 しっかりした妻をだれが見つめることができよう。彼女の値うちは真珠よりもはるかに尊い。
- 31:11 夫の心は彼女を信頼し、彼は「収益」に欠けることがない。
- 31:12 彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。
- 31:13 彼女は羊毛や亜麻を手に入れ、喜んで自分の手でそれを仕上げる。
- 31:14 彼女は商人の舟のように、遠い所から食糧を運んで来る。
- 31:15 彼女は夜明け前に起き、家の者に食事を整え、召使いの女たちに用事を言いつける。
- 31:16 彼女は畑をよく調べて、それを手に入れ、自分がかせいで、ぶどう畑を作り、
- 31:17 腰に帯を強く引き締め、勇ましく腕をふるう。
- 31:18 彼女は収入がよいのを味わい、そのともしびは夜になっても消えない。
- 31:19 彼女は糸取り棒に手を差し伸べ、手に糸巻きをつかむ。
- 31:20 彼女は悩んでいる人に手を差し出し、貧しい者に手を差し伸べる。
- 31:21 彼女は家の者のために雪を恐れない。家の者はみな、あわせの着物を着ているからだ。
- 31:22 彼女は自分のための敷き物を作り、彼女の着物は亜麻布と紫色の燃り糸でできている。
- 31:23 夫は町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。
- 31:24 彼女は亜麻布の着物を作って、売り、帯を作って、商人に渡す。
- 31:25 **彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日待つ。**
- 31:26 彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。
- 31:27 彼女は家族の様子をよく見張り、怠惰のパンを食べない。
- 31:28 その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言い、夫も彼女をほめたたえて言う。
- 31:29 「しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはそのすべてにまさっている」と。
- 31:30 麗しさはいつわり。美しさはむなし。しかし、【主】を恐れる女はほめたたえられる。
- 31:31 彼女の手でかせいだ実を彼女に与え、彼女のしたことを町囲みのうちでほめたたえよ。



おはようございます。

今日は皆さんの週報ラックの中にカードが入っていましたね。

さっき小田さんが献身のお祈りの中で、多分感動されて話されたのかなと思いましたが、今日は母の日、お母さんに感謝する日です。

私たちは皆、生かされている人は全員、母を持っています。

ということは世代が続く間、このお母さんという存在はずっと、

人が始まってから今日まで、みんなそれぞれに自分の母を持ち、

また自分が母と呼ばれる子どもたちを持ち、そして世代が移っていきます。

そういう中で今日、箴言という一つの聖書の箇所から学ばせていただきたいのです。

司会者のひとみさんとさっきちょっと話したんですけど、

この聖書の箇所は、とってもでないけど、私たちはこのようにはなれないという感想を二人で

それは当然のようです。これはですね、ある程度これを編纂した方が理想のお母さんという形で、この詩を書いているのを集めているんです。

そしてその理想のお母さんということを書いてきたために、イスラエルのヘブル語で詩を書いた時に、1節ずつが一つの言葉になってるんですけど、その頭文字がヘブル語のアルファベットに従ってずっと書かれているそうです。



ですからある面では文学的にというか希望的にこういう風に記されているということです。ですから、このようになろうと思えば本当に難しいし、例えばこの中の一つの節を自分がやっていけるかなと思う節を探すのも難しいというそんな感じですね。

たった一つだけこれならできるかなと思ったのが、微笑みつつ先を望むという 25 節です。それだけならなんとかいけるかなと思います。他は本当に理想として歌われているお母さんの姿です。聖書注解書には、理想とするというより母親の献身的な姿を詩で表しているという風に言われています。ですからお母さんという存在が犠牲という言葉ではちょっと言い難いんですけど、他の人のために特に家族のために心を使い時間を使い労力を使うということがお母さんの姿で、今読んでいただいた中でも、それがもうはっきりと現れています。

この詩の中に書かれてあるお母さんの姿は実に勇ましいというか、健康で力強くそして頭の回転もよく、まあ本当に理想的ですね。ですけど、実際には私たち経験していますが、病気になったり、弱さを持ったり、そういう足りなさを持ったりしている者が母親としてその役割を神様から与えられて、させていって来た、または今その真っ最中にある人たちのことを思う時に、時々立ち止まって、今のこの箴言の詩を読んで、それに心を向けるということとはとても大事だと思います。

今の私の姿でいいんだって言って、止まってしまうのではなくて、それが一つの理想の中にあるということを考えてみるということも、とてもいいことかなと思っています。

今読んでいただいた 10 節からずっと続きますその中に、「しっかりした妻」という言葉が先ず最初に出てきました。しっかりしたという言葉の意味としては、もちろん強いとかそれから能力があるとか優れているとかまたは富んでいるとか勇ましいとかっていう意味が含まれているんだそうです。

ですから、しっかりした妻というのはあまりこの言葉から想像すると、弱々しくはないという、むしろ勇ましいというかそれと、強いお母さんというのは私たちも言いますが、お母さんは強い、なぜなら子供のためとか家族のためとかっていうことに力を使うときは結構強くなるというものが神様から与えられている能力であるのかもしれませんが、そういうものを私たちは持っている。

で、私たちはそのしっかりした奥さんまたはお母さんは沢山いるけど、そうではないことを最後にこの詩を歌ってる人は告白しています。しっかりした女は沢山いるけれども、あなたはそのうちの最も優れているものだという風に言っているところがあります。

その言葉にちょっと注意を向けていて、それを心に留めておきたいなと思っています。でそのしっかりした奥さんたち、そしてこの詩に歌われている理想的な奥さんはどういう姿をしているかっていうと、まず第一に、

夫のためによく働き、心を配るということです。ですからお母さんまたは妻という立場は子供のためにはばっかりっていう風に行くのではなく、まず夫のために心を配る、働くということがその役割として与えられていると。

(第二に)

それから次に家族のために衣食住を整える。ですから、寒くなると寒さを防ぐために合わせの着物を作るとか、暖ったかいものを着せてあげるとか、そうした心配りをする。

そして食べ物も美味しいものというか気を配って食べ物を準備するという。

それから住まいを整える。快適に生活することができるようにと。

ですからこの衣食住を見ただけでもなかなかこれは大変。

その通りになかなかいかないものがあるなあっていう風に思うことがあります。

でもやっぱりそういうものを学んで、そうありたいなと思うということとはとても大事なことで、もう今は私はこうだからこれ以上はどうしようもないのよ、みたいに言うのではなく、少し心を使ってみるということのも大事なことかなあと思います。

そして三番目に、

この今書かれているしっかりした奥さんは、悩んでいる人に手を差し出す。悩んでいる人っていうことは、この人は結構周りの人と交流があるということですね。ですから孤立していない。この理想として書かれている妻の姿は、交流がある中にいる人である。孤立していないということが大切です。

で、悩んでいる人に手を差し出して、または貧しい人に手を差し伸べる。だから貧しい人がいたら、何もしないで言葉だけで寒い日に暖かいスープを召し上がるといいですねって言うのではなく、この人が本当に食べ物がなかったら、暖かいスープまたはおむすびとか日本で言うならおむすびとかそういうものを準備してその人に差し上げるとか。まあそうした具体的なことをするということが、その役割として私たちは与えられているかなと思います。ですから私たちはその家族が一つの単位としてとても大切なんですけど、その家族を単位として地域にいる。

または私たちはこうして教会に交わることができるようにされているっていうことは、大きな祝福でありまた周りに広がっていくものであるということを感じたいのです。

ですからやっぱりお母さんという人たちは、今は結構少なくなっていると思いますが、私のおばあちゃんなんかの時代を私が子供時代に見てたんですけど、あのおばあちゃんがお家にいると近所の人はいもう当然のように「坂田さん」って言って言ったらもう上がってきてるって感じで、まあ本当にこの明けっぴろげ「どうぞどうぞ」っていつも言うもんですから、私はおばあちゃんなんかご馳走してあげるのかなと思ったら、全然そんなことなくって、本当に漬物とお茶とか、そういうので結構楽しく会話していかれるっていうのを、よく子供の時に見ました。

ですから私もなんかそれが身につけているのか、「どうぞどうぞ」って気楽にこうあの何も特別なことないのにいいじゃないおしゃべりしていけばみたいな感じで、家も綺麗に片付いてなくても、まあ座る場所があればいいよね、みたいな本当にけじめがないような感じなんですけど。やっぱりそうした地域の中にいるっていう事、そして地域と交流があるということ、いざという時に本当に自分自身が慰められて励まされるということを経験してきました。やっぱり、助け合うということがあって神様がこうした人との交わりというのも大切にしようとして教えられると思います。

そういう中で、この教会は特にそうした人々との祈り合う、そして助け合う、ということが与えられていることは感謝なことだと思っています。

私が今日特に皆さんにお知らせしたいのは、先ほども言いましたが、「微笑を持って」という言葉にちょっと引っかかったというか、まあ一つできることといえばこれくらいかな？みたいな思ったので、そのことを少し考えてみたいと思っています。でこの 25 節に先ほど読んでいただいた中に彼女は力と気品と持っているということを書いてありました。力っていうのはこのしっかりした妻とかっていう言葉で結構しっかりした妻または力強いとかそれから家族のために力をしっかり使って食べ物を準備したり着るものを準備したりとか畑のことを管理したりとかそういう力強さをこのお母さんは持っているというふうに言いましたが、あと気になるのがこの「気品」という言葉で、辞書を引いてみたんです「気品」。そしたら尊く気高い事って言ったか、これも私とは縁がずいぶん遠いなと思って、ああそうですかみたいな感じで、そしたらこのお母さんの理想は力があってしっかりしていて、その上気品があるという、まあ素晴らしいなと思いながら見ました。

で、その上にこのお母さんは「微笑みながら後の日を待つ」という言葉がとても私の心に留まりました。それは、後の日を待つというのは将来に希望を持つとか、将来に心配がないとかっていうことの意味

だそうです。ですから、将来に関してあまり心配ないよとか、そう簡単には言えないものがある、そういう中で私たちは微笑みながらその日を過ごしていく。それを待っていくという。ちょっと難しい言葉を私たちに理想の姿としてまあ要求されているというか、そういうものに私たちは注意を向けるということが必要であるということをお教えられています。

で、この微笑むという言葉はどういう時にありますかって言うんです。

どういう時にこの微笑みっていうのは出てきますかって質問したら、皆さんどのようにお答えになるでしょうか？

微笑っていつしますかね？ってあのモナリザの絵がありますよね、あの微笑み、あれも本当に素晴らしいし、いつまで見てても見飽きないです。

で私たちのこの今の時代、自分自身に当てはめてみると

微笑みっていうのはどういう時に出るかな？っていうことを考えてみると、ゲラゲラ笑うというのとまた全然違うんですよね。

微笑みって辞書引いて、何でも辞書引きたい人なので、辞書を引いたら、声を出さないでにっこりするというのが微笑みだそうです。

ですから今の時代はとでもそれがうまく表現できませんよ。マスクしてますからね。

にっこりしてても目だけでしょう？だからにっこりしてるかどうかちょっと分かりにくいっていうのがあるんですけど、微笑みっていうのはどういう時に出てくるかっていうと、それは心が穏やかである時しか出てこないです。

イライラしてたりものすごく急いでいたりという時にはこの微笑みというのは余裕がないというか、心にそういうものがない時はなかなか出てこないですね。

皆さんもご自分で経験があると思いますが。

微笑むというのはやっぱり心が自分の中に穏やかであって余裕がある時、

それから相手に優しい気持ちがある時。そうでないとなかなか微笑みは難しい。

もう心の中がもうなんていうの怒りでいっぱいになってる時に、微笑むというのはとても難しいものがあります。で、微笑むというのは何がその私たちの原動力になってるかっていうと、

自分自身の心が非常に穏やかで優しい心になった時に初めてこの微笑みが出てくる。

だからこの詩を歌った人たちは日常生活にこういう理想的な、

何でも準備ができて衣食住充分足りてますっていうことがあるけれども、

その最後になって、そのお母さんの大事な部分として微笑みがある。

力と気品があって微笑みながら後の日を待つということ。

これがちょっと静かな感じに受け止められる。

勇ましいお母さん、働き者のお母さん、でも本当に最後には微笑みながら後の日を待つ。

だから私たちは希望を持つ。それから特に私たちは神様を信じている者として、

神様を信じて、後のことを委ねていくということ。そしてそれを信じていくということが与えられています。

でそれが一番私たちにとってはやりやすいことかなと思いつつながら、

これをちょっと気になりながら学んでみました。

で私たちは神様を信じて神様に生かされているということを受け入れて、

今自分のいるところ、または自分のあるところ、また自分自身を受け入れていくその中で、

感謝し、主の御手はどのように導かれているかと、それを全て知ることができないんですけど、

神様は全て導かれるということに望みを置く。それが後の日を待つということです。

ですから私たちが今状況はこうだからこういう風になるなという計画的に思えるということよりも、

どういふ風になるかわからないけど、神様が私たちを守ってくださり導いてくださるという信仰によって後の日を待つことができるということです。

よく言われますけど、明日もわからないと、今日は元気だけど明日は分からん、というふうに時々言う人もありますし、また実際にそういう経験をすることもあります。

それは本当に私たちはいつどのようなことを経験するかわからないことがいっぱいある。

そういう中に、じゃあ先々不安じゃないですかって言うんじゃないで、

自分自身のことに関しては不安があるかもしれないけど、

神様はその私の不安もそのまま受け入れてくださって導いてくださるんだ。

たとえ問題があったり病気になったりしたとしても神様は私たちと共にいてくださるということを感じることで、私たちが穏やかに過ごすことができる。そういう信仰を持っていれば、私たちは微笑みを忘れることがなく、微笑んでいくことができるでしょうということです。

もう一つ面白い言葉というか聞いたことなんですけど、病気になったり、それから今認知症っていうのは結構言われてますけど認知症にならないために、結構この微笑みっていうのが役に立つんだそうです。

何でと思ったら、この口角を上げるこの口角が上がるっていうことは脳にとってもとても良いことであると言われてます。ですから私たちがそのいつも仏頂面よく言われてましたけど、あのこの口角を下げている、皆さん今日マスクされてるからわかりませんが、

子供が怒った時とか気分が悪いとか思うように自分のことがいけない時って子供の口の形はへの字になってるって言います。けど大人も同じですよ。への字してます。

時々私もあんまりこうなんか気分がどう言ったらいいですかね、明るくいけないなあと思う時に鏡見てみるんです。そしたら案の定この口角は下がってます。でそれを見た時にあダメですよって、ここをあげないと危険ですよって、自分で言いながら自分で鏡でこうしてあげていくっていうことをする時があるんです。

それってすごく大事だなと医学的にも言われてるっていう事は、良いことはしないといけないなと思いがらいます。

で私たちもその心に不安感がいっぱいあって心配事がいっぱいあって、そういう中で微笑むということは本当に難しいし普通はできないです。でも、ただ一つ神様を信じて、神様は私のことをよくして下さりずっと守り支えてくださる、という信仰によって私たちは微笑むことができます。

まさにそのことをこの詩を書いた人は教えてくださっているんです。

ですからこの理想なお母さんは毎日よく働いて家族のためにとってもいいことばかりをしてくださるお母さんですけど、お母さん自身が本当に神様に信頼して、そして心が穏やかであるということ、それが何よりも素晴らしい理想の姿ではないかな。とこういうふうに思っています。

でこのお母さんがそういう風に理想なお母さんとして最後に微笑み後の日を待つということ、そしてご主人も子供たちもあなたは素晴らしい人だと言ってくださるようになる、その一番の根底にあるこのお母さんの拠り所は主を恐れること主を畏れる女は褒め称えられるという、主を畏れることこれが私たちの一番の大事な部分であるということはこの詩の書いた人は結論として、このいっぱい理想として生きていく上に大切な衣食住を整えて、何をして何をしてというそういうものがあって、それで全て理想的ですと言わないで、その最後にこの力と気品とに満ちて微笑みを持って後の日を待つという、こういう本当に心から出る神様を畏れて神様に従っていくということを最後の結論のような形で、この理想のお母さんという姿をまとめてくれているように思いました。

そしてこの箴言は最後 31 章までありますが、その 1 章の 7 節というところに、

主を畏れることは知識の初めである、という風に書かれてあります。

で主を畏れるということ、これはどういうことかという、

神様が恐い恐いということではなく、神様が私たちを作ってくださり、私たちを今日導いてくださる。



ですから私のすべてのこの生きるいろんな場所、そしてあり方そういうことも全部神様が導いてくださって助けてくださっているんだということを信じる。そしてそれを頼っていくということが主を畏れることになります。そういう風な生き方をすることが、私たちが知恵を持って生きていくのにとっても大事な要素として私たちは 与えられています。

ですから今日私たちは主を畏れること、それを第一にさせていただきたいんです。

長い信仰生活をしておられる方、本当に素晴らしい神様の恵みをいつもいただきながら生活されていると思いますが、時々自分の進んでいる道、方向、それをチェックするというか、正しく行ってますか？っていう、電車に乗ると運転士さんが出発する時によくわからない言葉なんですけど「なんとかなんとかか出発進行！」とかって全部言いながら運転されているのを見て、本当に大事なことだなあと感じますね。

で私たちも、ああ今日も神様信じてるし、神様に従っていけばいいのよねみたいな、そういう生き方よりも、時々止まって、本当に私は大丈夫？神様にしっかり繋がっていますか？私は神様を畏れていますか？ということ自分の中で点検するということは、とても大事なことだと思っています。

こんなもんよ、っていうのは信仰にはあまり良くない。

毎日新たに、今日を神様に繋がっていくということが大事なことだと思っています。で、私たちの教会に今年与えられている標語(ローマ人への手紙 12 章 12 節)は、今日も言いましたね。皆さんこれ(講壇上の標語)なしで言えますか？



まず最初に「望みを抱いて喜び」この言葉はこの理想のお母さんの姿ととても合うんです。

例えば、微笑みながら後の日を待つというのがこの望みを抱いて喜びとぴったり合うと思います。

で、私たちは毎週日曜日「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。」てね言います。

でも望みを抱いて喜び、次に来る言葉は決して嬉しい言葉ではないじゃないですか。

患難に耐えなさいと言うんですよね。ですから私たちが望みを抱くということ、そしてそれを神様にいつも点検して今日は神様にしっかりつながって望みを抱いてますか？神様を信じていますか？ということ点検するということは、とても大事なことだと思っています。

で最後に、私たちはこの標語にもあるように、望みを抱いて喜ぶ時にきっと私たちは仏頂面というか、への字になってないで、もっと喜びなさいって書いてあるんですから、本当に私たちは喜んで、日々を過ごさせていただきたいと思っています。

で今日はちょっと引っかけたことなんですけど、微笑みということについて一つの、誰が書いたかっていうことはわからないんですけど、微笑みということはどういうことではないでしょうかって言葉を集めたものを、もう 10 年くらい前にもらったことがあって、こういう風に可愛いコスモス、私がコスモスが好きだって言ったらコスモスの絵を入れてくれて、そしてその上にその「ほほえみ」という詩を書いてくださった。私はもらって多分、野ばら会(婦人グループ)にも少し配ったことがあるのかなと思うんですけど、忘れていますが、今ちょっと 8 枚くらい余分がありますので、もし欲しい方があったら先着順です。

### 「ほほえみ」

#### ほほえみ

それは少しも元手はかかりません  
しかし、多くのものを人に与えてくれます

#### ほほえみ

それは人に与えてもいっこうに減りはしません  
しかし、もらった人を限りなく豊かにします



しかし、このほほえみは  
お金で買うことも 人から借りることも  
盗むこともできません

ほほえみ  
それを生み出すのに少しも時間はかかりません  
しか、しそれを受けた人の記憶の中には  
永遠に残ることさえあります

ほほえみ  
それがなくても生きてゆけるほど  
強い人はこの世にいません  
それがなくてもいいほど豊かな人もいません

ほほえみ  
それは家庭の中を幸せにします  
職場を明るくします  
ほほえみは友情のしるしです

ほほえみ  
それは疲れきった心に休みを与え  
失望した人に励ましを与え  
悲しんでいる人に光をもたらしてくれます

ほほえみ  
それは人生のあらゆる問題に対して  
神が与えてくださる妙薬です

ほほえみ  
それはあなたの心の奥底から湧き出て  
惜しげなく与えた時だけ  
値打ちが出てくるものなのです

もう1回、言いますね

ほほえみ  
それはあなたの心の奥底から湧き出て  
惜しげなく与えた時だけ  
値打ちが出てくるものなのです

ある人は  
ほほえむことができないほど疲れているかもしれません  
だから、その人にあなたのほほえみをあげてください  
あなたのほほえみを最も必要としているのは  
その人かもしれないのですから

作者不詳

というね、微笑みはこういうものと本当にね元手も全然かからないし、

私たちが相手に無意識のうちにか、やっぱりその優しい心とかそういうものがない時は、なかなか微笑みって出て来ないと思いますが、私たちは神様から与えられた女性としてまたお母さんとして、そうしたものを能力の一つとして使っていきたくらいなと思います。

で私たちはそういうことによって、この望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい、という教会標語をお互いがお互い同士、こうして認識し合いながら、苦労がある時苦労している時、その人に祈りますよ！頑張ってくださいね！ってそういう意味でも、微笑みかける。

そういうことがこの教会の中で起こってくると、自然と元気が出てくるというか、本当にそういう中に温かいものがだんだんと増えてくるのではないのでしょうか？

くださいくださいではなく私から始めないとダメです、というのが微笑みというので教えられました。

私があなたに捧げて新たに上げてあげた時にそれが帰ってくる。だからまず自分が出発点であるということをついつも心に留めていきたいです。

そして私たちの教会、問題があり、また山崎先生も休みが必要で休養されています。

何かしらこの先に不安があったり、何かどうなるんだろう？なんて思うことがあります。

でも、この教会の中心は神様です。教会はキリストの体であって、というはっきりとした神様からの言葉をいただいています。

ですからここにおられるのはイエス様ですね。で、私たちみんなそれぞれの部分です。ある人は手であったり指であったりというふうに一人一人が役割を担っています。そういう中で私たち部分部分が元気がなくなったら体も元気がなくならないですか？ね。

私たちは自分の体のことで考えても、手を怪我した、どこが悪いと言ったら、なんとなく元気がなくなるということがありますが、私たちの教会の一番、体としてくださるイエス様、そのイエス様に私たちは今日も繋がってられるということ。そしたらそういうイエス様に望みを抱いて、イエス様にその願い事を全部預けることによって、この標語が本当に意味がよく輝いてくるんじゃないですか。

望みを抱いて喜びなさい、そして私たちのうちにお互いが微笑みを持って交流をしていくということが、とても神様の祝福に預かるものであると信じています。

皆さんどうか微笑みながら後の日を待ってください。

神様を信じて、こうなるんじゃない？ああなるんじゃない？は、やめてください。神様がどうしてくださるか、希望を持って神様に祈りながら、進んでいきましょう。そしてそれも仏頂面じゃなくて、笑いながら微笑みながらそうになったら素晴らしいと思います。でもお互い、ちょっと気をつけてやってみたらどうでしょうか？

気分的にも元気が出るんじゃないでしょうか？そうです。毎日そうして主に支えられていますけど、主に信頼して、ますます主により頼んで進んでいかせていただきたいんです。

全部のことを知ってくださる神様は、私たちの弱さも辛さも今どういう状況にあるか全部してくださっていますから、助けてくださいます。私たちは微笑みながら先の日を待ちましょう。



お祈りします。天のお父様、心から御名を崇めて賛美をいたします。私たちは神様から与えられる御言葉によって、時々自分の進んでいる道を点検する必要があることがあります。どうかあなたに本当に全部の信頼を置いて、神様に助けられながら、また導かれながら、迷わせていただいていることをもう一度確認しながら、その神様が私たちを導いてくださることを信じることによって、微笑みながら歩いていくことができます。先の日を待ちます。神様あなたがすべてを導いてくださることを信じて、心が平安でありますように、おひとりびとりにいつもあなたからの平安と愛と恵みが豊かにあって、それぞれがいろんなことがあっても、微笑みながら歩むことができる日々としてくださるようにと心から願います。イエス様がすべてを導いてくださることを信じて、感謝して、イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ご一緒にお祈りしましょう。